

## 今野浩先生のご逝去を悼む

2022年2月21日、今野浩先生がご逝去されました。享年81歳でした。今野先生は、数理最適化、金融工学の分野の第一線で活躍され、研究や教育に多大な功績を残されました。本学会で2004、2005年度に会長を務められたほか、第13回国際数理計画法シンポジウム（ISMP）の実行委員長や、日本応用数学会副会長、日本知財学会副会長、日本金融・証券計量・工学会会長などを歴任されました。

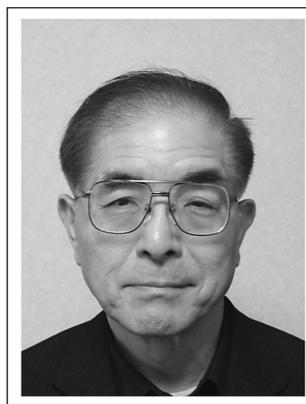
今野先生は、1965年に東京大学大学院で応用物理学の修士課程を修了されたのち、電力中央研究所に入所、1968年には研究所の海外留学制度を利用してスタンフォード大学大学院へ留学されました。そこで線形計画法の生みの親であるジョージ・ダンツィクの指導のもと1971年にオペレーションズ・リサーチのPh.D.を修得されました。1974年には創設されたばかりの筑波大学電子・情報工学系の助教授に就任され、1982年に東京工業大学人文社会群に統計学の教授として招聘されました。

1988年に東京で開催されたISMPでは招致の段階から深く貢献され、その結果、最適化に携わる当時の研究者や学生にとっては東京オリンピックをはるかに凌ぐイベントとなりました。ちょうど同じ頃、最適化の分野を騒がしていたのがカーマーカーとAT&Tベル研究所による線形計画法のアルゴリズム特許ですが、数学アルゴリズムへの特許付与の妥当性に疑問をお持ちだった先生は、特許庁に無効審判請求を行うなどして壮絶とも言える抵抗を示されました。

1994年に東工大の経営システム工学科に移られたのち、当時流行り始めていた金融工学がエンジニアの真摯に取り組むべき研究課題であるとして理財工学研究センターの設置に尽力され、1999年には初代センター長を務められました。2001年に東工大を退職されて中央大学経営システム工学科の教授に就任され、2011年に定年退職されています。

晩年は「工学部ヒラノ教授」シリーズで、ご自身の周辺のごことはすっかりオープンにされておりましたが、数理最適化を軸に、その周辺にまで視野を広げてさまざまな形で活躍なされた先生がこの世を去られたことはまことに残念です。先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

(久野誉人)



### 故今野浩先生略歴

1940年8月11日生まれ

#### [学歴]

1963年3月 東京大学工学部卒業

1965年3月 東京大学大学院修士課程修了

1971年6月 スタンフォード大学大学院博士課程修了

#### [学位]

1971年9月 Ph.D. (スタンフォード大学OR学科)

1977年1月 工学博士 (東京大学)

#### [職歴]

1965年4月 電力中央研究所研究員

1974年4月 筑波大学電子・情報工学系助教授

1982年4月 東京工業大学工学部教授

1996年4月～98年3月 同大学院社会理工学研究科  
研究科長

1999年4月～2001年3月 同大学理財工学研究セン  
ターセンター長

2001年3月 東京工業大学名誉教授

2001年4月～11年3月 中央大学理工学部教授

#### [受賞]

1967年 「21世紀の日本」懸賞論文コンテスト内閣  
総理大臣賞 (共同受賞)

1981年 OR学会第9回文献賞

2003年 OR学会第3回業績賞

2010年 日本金融・証券計量・工学会JAFEE賞  
[OR学会関係]

研究普及理事 1983・84年度

論文誌編集委員長 1986・87年度

評議員 1992～97年度

代議員 2002・03, 06～11年度

副会長・表彰委員長 1997・98年度

会長 2004・05年度